

2017年国際教育開発フォーラム プレゼンテーション要旨

ラミチャネ・カマル

筑波大学

概要

このプレゼンテーションでは、インクルーシブ教育に関するいくつかの研究結果やグローバルな政策的取り組みに基づき、低中所得国の障害者に質の高い教育を提供する上での問題点と障壁を取り上げる。「万人のための教育 (EFA)」や「ミレニアム開発目標 (MDGs)」(2015年に終了)を達成するための努力がなされたにもかかわらず、障害児の就学を確保するには至っていない。たとえ就学したとしても、彼らが受ける教育の質は比較的低いままである。

しかし障害児教育について、国際的な政策の傾向に変化がみられる。1994年のサラマンカ世界会議の後、特別教育や統合教育に代わってインクルーシブ教育が徐々に先進国、開発途上国の両方で実施されるようになってきた。

2015年に韓国で開催された世界教育フォーラムのインチョン宣言は、障害者の教育のインクルージョンと公正さを取り上げ、「教育のいかなるターゲットも、万人に対して達成されない限り達成されたとするべきではない」と述べている。同様に、ポスト2015年の持続可能な開発目標(SDGs)にも障害者のインクルージョンが明確に入った。特にSDG 4.5は、障害者をはじめとする脆弱な立場にある人々について言及している。障害を持つ子どもが質の高い教育を受けられるようにならなければ、SDG 4は達成できない。質の高い教育が受けられなければ、障害者は雇用の可能性が限定される。障害者は障害のない人々に比べて、就学率や修了率が低く、就学年数も短く、成績も低い。